

2020年3月2日

マイクロプラスチックが人体あるいは環境に及ぼす影響について

プラスチック製品の破砕や摩耗で発生するプラスチック粒子、また工業用として製造されているプラスチック粒子、いわゆるマイクロプラスチックが環境に及ぼす影響について、昨今世界的な議論となっております。

また、カナダのMcgill大学より、紅茶のプラスチック素材のティーバッグを熱湯に入れると多量のマイクロプラスチックが放出されたとアメリカ化学会にて発表があったとの報道もございました。

弊社では現況を重く受け止め情報収集に努めたところ、WHOをはじめとするいくつかの世界的な機関よりのマイクロプラスチックが人間あるいは環境に影響を与えるという証拠は現時点で認められないとの声明・見解や、国内においては環境省や厚労省にて調査取り組みが始まった段階で各業界団体での早急の対応についての言及が未だになされていないという状況であり、これら国内外の権威筋からの情報を鑑み、弊社独自にて何らかの結論を出すには時期尚早との判断に至りました。

無論、マイクロプラスチックが人体に及ぼす影響については、前述の機関より今後も慎重に調査研究を進めるべきとの提言がなされており、弊社にて適切な対応を行うべく今後も注意深く状況把握、情報収集に努めます。

また、人体のみならず生態系や環境全般に与える影響につきましても憂慮されているため、環境保全の観点から今後も弊社の環境方針に則り、本件についての対応を図っていく所存でございます。

最後になりましたが、引き続き変わらぬご愛顧を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。